



写真提供：霧島市(和気公園 藤まつり)

発行(公財)鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

多文化共生の地域づくり事業



災害時及び医療機関における外国人への支援講座(通訳体験の様子)

平成28年11月20日に外国人が災害時や医療機関受診時に感じる困難等を当協会の語学ボランティアの皆さんや在住外国人の方々に知って頂くための講座として「災害時及び医療機関における外国人への支援講座(語学ボランティア勉強会)」を実施しました。「NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)」から講師をお招きし、19名が参加しました。

講座では、基礎的な通訳技術と心得を学び、避難所での災害支援ナースによる健康相談訓練の通訳を実際に体験しました。参加者からは「先生のお話は力強く、医療通訳の世界にとっても興味を持った。」「自分は外国人だからこそ、困っている外国人のために少しでも役に立ちたいと思った。」との声がありました。

平成28年12月17日に奄美市で「奄美における多文化共生地域づくり講座」を実施しました。「NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会」から講師をお招きし、24名が参加しました。

観光振興の観点から奄美地域が持つ魅力を外国人住民の視点から見つめ直し、外国人住民の文化、言葉、生活習慣の「ちがいが」に気づき、「ちがいを」活かした外国人住民との協働による地域活性化について参加者同士で意見交換を行いました。

また、奄美に在住する中国、カンボジア、ベトナムの住民の3名の方に奄美の魅力を話して頂きました。参加者からは「今後、奄美在住の外国人の方々と協力して奄美の魅力を発信していきたい。」等の声が寄せられました。

ペルー鹿児島県人会100周年記念事業



南米楽器サンポーニャづくり

平成28年8月21日にペルーのリマ市で「ペルー鹿児島県人会創立100周年記念式典」が盛大に行われました。

ペルー鹿児島県人会創立100周年を祝い、当協会が事務局を兼ねている「鹿児島県海外移住家族会」と共催で、県民の方々にペルーの文化等を理解することを目的に、平成28年10月22日から11月6日の間、「ペルーわくわく文化講座」、「南米楽器サンポーニャづくり」、「ペルー文化とアマゾンのアグロフォレストリーについて学ぼう」、「ペルーのハーブティーのお話し」、「ペルー料理講座」を開催しました。多くの参加者の方々に、ペルーと鹿児島との繋がりや歴史の長さを実感して頂き、「楽しかった。ペルーに行きたい。」という嬉しいお声を頂きました。

日本語・日本理解講座



日本語教室の様子

極的に学習に取り組んでいました。

日本語学習を通し、国籍・性別・年齢・文化の違いを超え、互いに励まし支え合いながら一つの仲間として友好を深めて頂けたようです。

鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語、日本人の生活習慣や様式等について学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成28年5月から平成29年2月まで全60回（水曜日クラス30回、木曜日クラス30回）実施しました。

今年度は、参加者が日本語で母国の文化や歴史の紹介をしたり、美容院などで日常使う言葉の学習をしました。また、課外学習として、実際に日本人に道を尋ねながら、目的の場所へ行く練習等も行いました。

参加者からは、「日常流れていた日本語のアナウンスの意味が理解できるようになった。」、「覚えた日本語をこれから使ってみたい。」、「もっと日本語が上手になりたい。」という声があり、積

日本語サロン おしゃべりひろば



エジプトの紹介&世界の教育をテーマとしたフリートーキングの様子

の友達ができて参加することが楽しみのになった。」という声が寄せられました。

今回の「おしゃべりひろば」をきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語を学ぶ意欲に繋がっていくことを期待しています。

日本語の日常会話が可能な外国人を対象に、フリートーキングを主な内容とする「日本語サロンおしゃべりひろば」を平成28年5月から平成29年3月まで、全20回実施しました。

「おしゃべりひろば」では「鹿児島砂防ボランティア協会」、「鹿児島中央警察署」等にお越し頂き、土砂災害や交通安全、防犯など日本や鹿児島で生活する上で役立つ情報をテーマに話題を提供して頂きました。

また、鹿児島に長く在住している外国人をゲストとしてお招きし、日本での経験を通して「教育」や「医療」等のテーマについて話して頂きました。

「いつかゲストのように日本語が上手になりたい。」「様々な国

英語絵本の読み聞かせ講座



読み聞かせの様子

Costume Party』を読み、その後の工作ではかぼちゃの帽子を親子でつくりハロウィン気分を楽しみました。

保護者からは「1時間子どもが英語にふれる機会はなかなかないので、とても楽しい時間を過ごすことができて良かったです。またこのような会を開いてほしいです。」等の感想がありました。毎回、子どもたちの笑顔があふれる講座となりました。

幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、3才から小学生くらいまでの子どもを対象に英語絵本の読み聞かせ講座を15回実施し、そのうち出張講座として金峰町、東串良町、奄美市（2回実施）で計4回行いました。

講座では、県国際交流員が講師となり英語の絵本を2～3冊読み、1冊は簡単な英語で分かりやすい内容のものにし、もう1冊はストーリーのある絵本にしています。例えば5月には文章は全て「Baby Happy」と「Baby Sad」で、絵を見てHappyとSadを学ぶ絵本『Baby Happy Baby Sad』を読みました。また10月はハロウィンをテーマにした絵本『Curious George Goes to a

鹿児島で世界を語ろう～第22回外国人による日本語スピーチコンテスト～

平成29年1月21日に9名（6カ国・地域）の方が出場し、『交流の大切さ』というタイトルでスピーチをした中国出身で神村学園高等部の姜慧玲（キョウ・ケイレイ）さんが最優秀賞を受賞しました。

姜さんはスピーチのなかで、ずっと憧れていた日本に来て、日本人の相手を気遣う独特のコミュニケーションや言葉遣いを学んだ喜びを語りました。また、学校の先生やクラスの皆、ホストファミリーと過ごすなかで、人と出会って、会話をし、共に理解し合うことは、こんなにも幸せが溢れることだと知った喜びや、平和を祈る気持ちを、笑顔いっぱいに465名の聴衆に語りかけました。

自分の学んできた日本語で堂々とスピーチをする出場者の皆さんの姿は、これまで日本で頑張ってきた様子を如実に物語っているようで、観客の皆さんも心を掴まれていたようでした。今後も一人でも多くの県民の皆さんに、国籍や文化の違いを越えた国際交流の場をご提供できればと思います。



本選出場者（前列）と審査員（後列）

県国際交流員による文化紹介講座

県国際交流員（韓国・中国・アメリカ・シンガポール出身）の4名が、県民の国際理解を促進し、多文化共生の地域づくりへの関心を高めることを目的に、自国の文化や料理を紹介する講座を6回にわたり開催しました。薩摩川内市での「シンガポールの食と観光地巡り」、いちき串木野市での「中国料理・文化講座」、湧水町での「ビストロ交流会」等、多くの県民の方が参加しました。

薩摩川内市では、シンガポール出身のクエク インヤン国際交流員が料理講座と文化紹介講座を行いました。サラミをたくさん使った揚州炒飯、じゃがいも・にんじん・玉ねぎ・トウモロコシを使ったABCスープ、バナナを揚げてつくるピサンゴレンの3品を調理したところ、「どれも家庭によくある材料なのに、国が違い食文化が違えば、いつもと違った料理になる。」と参加者から驚きと発見の声があがりました。会食の後、シンガポールの歴史・人気の観光地、シングリッシュといわれる英語、多民族国家であることのメリット、デメリットなどの講話を行い、「興味深い話を聴くことができました。」という感想をいただきました。各市町の皆さまと楽しく交流しながら、県国際交流員の出身国について理解していただくよい機会となりました。

また、多角的な視点での考え方を提供し、県民の男女共同参画及び多文化共生への理解を深め、よりよい地域づくりを目的とした「男女共同参画を推進する機関との連携講座」を実施しました。参加者からは、「連携講座で男女共同を学びつつ多文化共生を理解する形は国際的で、参加できたことを嬉しく思います。鹿児島の中で少数でも声を広げてゆくことで、認識が広がり男女共存の形が自然となっていくことを願っています。」等の感想をいただきました。



薩摩川内市での料理講座（講師中央）

県内在住外国人による公募型国際理解講座

県内に在住する外国人を講師として募集し、自国の文化を県民に紹介する公募型国際理解講座を2回行いました。

フィリピン出身の講師による文化講座では、県内在住のフィリピン出身者による国歌斉唱やダンスの披露がありました。

パラグアイ出身の講師による文化講座では、公用語であるスペイン語を使った会話練習や、パラグアイ料理・マテ茶の紹介がありました。

いずれの講座についても、講師がユーモアを交えながら楽しく自国についての紹介を行い、県民の方々との交流を深めながら和やかな雰囲気の中で講座が行われました。参加者からは、「テレビで報道される偏ったイメージではなく、フィリピンの複雑で多様な文化背景を知ることができた。」、パラグアイについては「講座に参加するまでは、全く知識がなく遠い国だと感じていたが、より身近に感じられるようになった。」等の感想を頂きました。今後も、この講座が、在住外国人の方々と県民の方々が互いの存在や文化について理解し、認め合う場になって欲しいと思います。



パラグアイ文化紹介講座

国際協力セミナー



セミナーの様子

講座後、学んだことを友達や学校の先生に話したり、県内のNPO団体のチャリティー活動に参加するなど、早速行動に移した学生もいたようです。この講座をきっかけに協力の輪が広がることを期待しています。

鹿児島県青少年国際協力体験事業



タートルアンにて

協力隊員の活動視察では、一方的ではなく、相手のことを第一に考えながら支援活動に取り組む隊員の姿に、支援とは何かを考える機会となったようです。この経験を糧に、世界に貢献できる人へと成長し、それぞれの夢を実現し活躍することを願っています。

第25回（平成28年度）：<http://www.synapse.ne.jp/kia/international/taikenjigyo2016.pdf>

協力隊OBと留学生が先生～見える・学べる・世界の国々～事業



薩摩川内市立黒木小学校にて

思った。自分の世界をこれから自分自身でもっと広げていきたい。」等の感想があり、児童・生徒にとって、協力隊の活躍や留学生の体験談を直接聞くことが、海外に興味を持つきっかけだけでなく、自身について見つめ直したり、将来の夢や目標について改めて考える機会となっているようです。

平成28年12月11日、「NGO福岡ネットワーク」と「JICA鹿児島デスク」から講師をお招きし、県内の中学生から大学生を対象にした「考える国際協力セミナー」を開催しました。

参加者からは「世界で起きている飢餓や児童労働について知ることができ、それをなくすために私ができることを考えることができたので、良かった。」「講座の前は、国際協力について、抽象的なイメージしかなく、どのように関わっていけばいいのかわからなかったが、今回の講座を通し、今後、自分は何をしていけばいいのかが具体的に理解することができた。」という声があり、参加者それぞれが自分にできることを考える機会となりました。

当事業は、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3団体が企画・実施しているもので、平成2年度の開始から25回目を迎え、これまで延べ315人の中高生を東南アジアの6カ国に派遣しています。

本年度は、平成28年7月24日から31日までの8日間、県内各地から選ばれた中高生14人をラオス人民民主共和国ビエンチャン県にあるポンミー村に派遣しました。

派遣期間中、4泊5日のホームステイや学校交流を通して、両国の文化の違いや魅力を知り、言葉の壁を感じながらも理解しようと懸命な現地の方々の温かさにも触れました。また、青年海外

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3団体が連携して実施しているこの事業は、年間40校以上、平成7年度の事業開始以来、延べ870校以上の県内小・中学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員や留学生等県内在住外国人を講師として派遣しています。平成28年度から特別支援学校への派遣も開始しました。

児童・生徒からは、「“夢をあきらめない”という言葉がすごく胸に響いた。何事にもチャレンジすることが大切だと思った。」「今自分が知っている世界は、自分の周りだけの小さな世界だと

地域国際交流促進事業

当事業では、国際交流への関心を高めてもらう目的で、地域在住の外国籍の方々や国際交流団体と連携し、県内各地のイベントに当協会の国際交流ブースを出展しています。今年度は鹿児島市の「MBC夏祭り」、肝付町の「高山やぶさめ祭り」、いちき串木野市の「地かえて祭り」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル」にブースを出展しました。

平成28年7月に行われたMBC夏祭りでは、鹿児島市国際交流財団と共に国際交流ブースを出展し、協会のパンフレット配布のほか、県国際交流員や留学生と一緒に「世界の挨拶スタンプラリー」「外国の切手を使ったしおり作り」「シンガポールの消しゴムはんこ」「韓国のチルギョノリ（七巧遊び）」を行いました。外国の切手を使ったしおり作りでは、大人も子どもも、好きなデザインの切手を見つけて、しおりを作っていました。また、「韓国のチルギョノリ（七巧遊び）」では、パズルを組み合わせて、船や山の形を作っていました。



MBC夏祭りの様子

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業は、今回で8回目となりました。当事業は、全羅北道庁の御厚意と御協力のもと県民を全羅北道に派遣する事業です。平成29年6月にテコンドーの世界選手権大会が全羅北道茂朱郡にある国立テコンドー園で開催されることから、鹿児島で空手を学ぶ青少年との交流をしたいとの全羅北道庁の提案もあり、昨年度に引き続き鹿児島県空手道連盟の会長始め指導者や青少年13名を派遣しました。

平成28年10月26日から30日の4泊5日の日程で、最初の3日間は、国立テコンドー園にて示範団の方々からテコンドーの蹴りを習い一緒に練習をし、練習後は一緒に写真を撮るなど交流を図りました。昨年参加した青少年もいたので、示範団の青年から「今年も来てくれたんだね。」と話しかけられ、昨年にも増して歓迎していただきました。

後半の2日間は、全羅北道の道庁所在地である全州市へ移動し、伝統家屋が並ぶ全州韓屋村見学や韓服体験、百済文化でユネスコ世界文化遺産に登録された益山弥勒寺址、王宮里遺跡などを視察し、韓国の文化を知ることができました。今回の訪問でテコンドーと空手を学びあう青少年が良い刺激を受け、今後も切磋琢磨し合う良い関係を続けてくれると期待しています。



テコンドー示範団の皆さんと

香港城市大学専上学院日本語研修

平成28年7月3日から24日の22日間に渡り、香港城市大学専上学院の学生10名が、日本語学習を始め、7泊8日のホームステイ、日本料理作り、茶道、学校訪問等を含む日本語研修に参加しました。

浴衣着付体験では、自分で浴衣を着付ける方法を学びました。なんとか自分で着た浴衣で肩を並べながら歩いた照国神社の六月灯は、普通の旅行では味わえない特別な体験となったようです。

また、期待と不安で始まったホームステイは、「もっと長い時間体験したかった。」という声があがるほど、充実した時間となったようです。バスや電車で登校しながら見た景色、日本語を話しながら家族と共にした夕食、本当の家族のように大切に思っていた経験により、彼らは鹿児島を深く理解してくれたことと思います。

日本語の先生方、文化講座の先生方を始め、本事業に関わってくださった多くの方々のおかげで、学生は全身で鹿児島を味わうことができました。この彼らの経験が、将来、鹿児島と香港の友好関係を支えてくれることを期待します。



浴衣着付体験

「日本式 農業×ものづくり」をアジアへ！海外展開セミナー in 鹿児島

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、日本の中小企業等の優れた製品・技術を活用し、開発途上国の社会・経済課題の解決を図るとともに、企業等の海外展開を通じて日本国内の経済活性化にも貢献することを目的し、政府開発援助（ODA）を活用した「中小企業海外展開支援事業」を実施しています。

平成28年11月29日に鹿児島市において、「日本式農業×ものづくりをアジアへ」と題し、海外展開セミナーを実施しました。県の基幹産業である農業をテーマに農業の6次産業化を推進する鹿児島県の取り組みを受け、関心の高い東南アジア地域を対象にJICAより農畜産業の状況について情報提供しました。その後、タイへ高付加価値果菜類の栽培技術を導入し、フードバリューチェーンの構築にも取り組んでいる銀座農園（株）（東京都）の事業が紹介されました。

また、鹿児島市に拠点を有する八光工業（株）がインドネシアで実施した「JICA 普及・実証事業」（廃棄物を原料とした環境配慮型コンクリートの製造）の取り組みについても紹介されました。

昨今、開発途上国においては、急速な経済成長に伴い、環境保全や貧困削減の課題を克服しつつ、持続した経済社会発展を目指すことが共通の目標となっています。そのため、海外の民間企業の持つ技術や運営ノウハウの重要性は増すばかりです！



セミナーの様子

鹿児島県国際交流協会内には、JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。JICA が実施している事業や国際協力にご興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

【JICA デスク鹿児島】TEL: 099-221-6624 (直通) E-mail: jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp



国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ 中国語ランチタイムトーク（毎週火曜 12:00～13:00）
- ・ 韓国語ランチタイムトーク（毎週水曜 12:30～13:30）
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ（毎週金曜 12:00～13:00）



国際交流に関するご質問、JICA に関するお問い合わせや、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

《開館時間》9:00～17:00（火曜日～日曜日）
《休館日》月曜日（但し祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）



【国際交流プラザ、本誌に関する問合せ先、相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かごしま県民交流センター1階 TEL:099-221-6620 FAX:099-221-6643

E-mail: kia@po.synapse.ne.jp

E-mail: kia8@po.synapse.ne.jp (相談窓口専用)

ホームページ: <http://www.synapse.ne.jp/kia/>

Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>